

解説

トンネル掘削の原点である イギリスを中心としたヨーロッパ展開

中西 俊博

(株)イセキ開発工機
取締役海外営業部長



1. イセキ開発工機の海外進出の経緯

当社の海外向け掘進機は、昭和55年にフランスのボルドー市の公共下水道工事に採用されたのが最初で、それ以来世界各国で採用されており、その数は250台に達している。

この10年間だけでもアメリカ、イギリス、イタリア、ギリシャ、チェコ、アイルランド、オーストラリア、ブラジルなどで採用され、ヨーロッパだけでもアンクルモール、アンクルモールスーパーなどの掘進機を約50台輸出した。

海外進出を推し進めた当社の創業者である黒瀬義仁は、昭和54年当時の海外進出の理由について、日本工業新聞に、次のように語っている。

「国内の下水道工事の潜在需要は大きいし、成長の余地も十分にあった。しかし、国内の公共事業予算は、財政難で、当分の間、下水道工事は横ばい状態が続くと見込んだこと。それに、国内の公共事業は、1年間の前期に発注が少なく、後半に注文が集中するので、前期の谷間を海外の注文で埋める作戦が展開できないものか。

また、多くのメーカーが激しく競合しており、新

しい製品が誕生すると、さっそく類似品が生まれて、共食いが始まる。建機市場も同じ動きをしているし、国内において必要とする台数には上限があった。

売れている最中に、上限台数に達したときにどうするかという危機感を抱いた。掘進機の売れ足が速ければ早いほど、上限台数に達する時期が近寄ってくる。その時点で考えをめぐらすのでは、遅すぎる。対策として、海外活動が浮上した」と。

こうした思考を根拠にして、黒瀬社長は、海外戦略の展開を推進しようとした。これに対する社内の空気はどうかというと、その時点では十分に国内だけで売り上げを伸ばしていたから“何で社長は、より国内での販売増進の方策を取らないで、海外に目を向けようとしているのか”と、社内の中に黒瀬社長の深意を図りかねていた。

さて、海外を志向するといっても、暗中模索の状態であった。だが、国内にいて待っていても、どうにもならないと、黒瀬社長と一人の社員の二人三脚で、欧州各国、アジア地域を歩き回った。製品のカatalogやスライド、データ類の分厚い資料を大きなかばんに詰め込んだの行商であった。

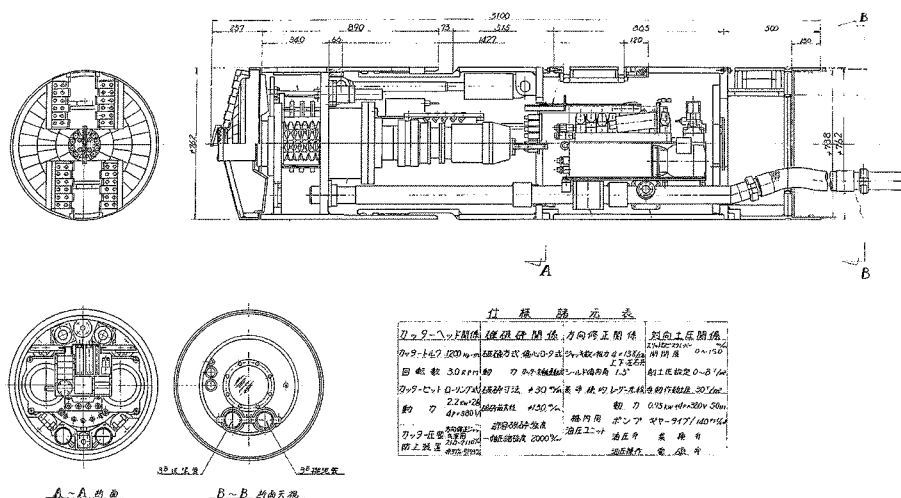


図-1 ハンザモール外形図

海外に当社の技術の根付ける場所を選んだのは、トンネル掘削の原点であるイギリスであった。ヨーロッパで、当社の技術が受け入れられたら世界に通用するだろうと、ヨーロッパを重点に海外ビジネスを繰り広げたのであった。

最初の2年半ぐらいいは、ヨーロッパの建設会社やコンサルタント、施主を相手に啓蒙作戦を展開した。まとまった商談の第1号は、昭和55年にワインで名が知られているフランスのボルドーの公共下水道工事に機械式土圧対抗型セミシールド掘進機が採用されたことであった。当公共下水道工事の元請業者は、地盤改良で有名なソレタンシュ社であった。

この商談を進めているとき、社内では“失敗したらどうするのか、下手したら当社の命取りになりかねない”と懸念する向きがかなりあったが、黒瀬社長は“新規事業に大きなリスクが伴うのは当然”として、まとめあげた。

ボルドーの場合、地盤条件が当社のシステムに合っているかどうかであったが、幸いなことに条件が合致していることから、会社の総力を挙げて取り組むことになった。当社から5人の社員が現地に向かい、フランスの施工業者と一緒に工事を進め、その結果いたって評判が良かった。

ヨーロッパ進出のもう一つの理由は、ヨーロッ

パは古くから下水道が発達した都市が多いが、その下水道のほとんどが老朽化していて、再構築が必要であった。

しかし、それに適した機械がどこにも開発されていなかった。そうしたときに、当社の機械が登場、ニーズにぴったり当てはまったわけである。

この掘進機を使った工事現場には“泥水を使ったシールド工事だそうだ”と、新しい技術に興味津々、強い関心を寄せる人たちが現場を訪れた。イギリス、ベルギー、オランダ、西独とEC市場の国から伝え聞いて足を伸ばしており、この実績が評価されて、評判がヨーロッパ各国に広まった。

その翌年の昭和56年2月、西独・ハンブルグ市の下水道工事に呼び径600の無人遠隔操縦テレモールが採用された。このテレモールの採用は、西独が巨額を投じて下水道普及率を90%に高める事業にタイミングよくはまったわけである。

その次に、昭和59年9月にミュンヘン市のプロジェクトにクランピングモール（別名：ハンザモール）を納入した。ハンザモールは、西独の要求に基づいてクランピングモールを改良・開発した掘進機で、テレモールで対応できない130mmまでの大きさの礫・玉石に対応するものであった。ハンザモールは、ミュンヘンでの施工の後、ハンブルグ市で使用された。